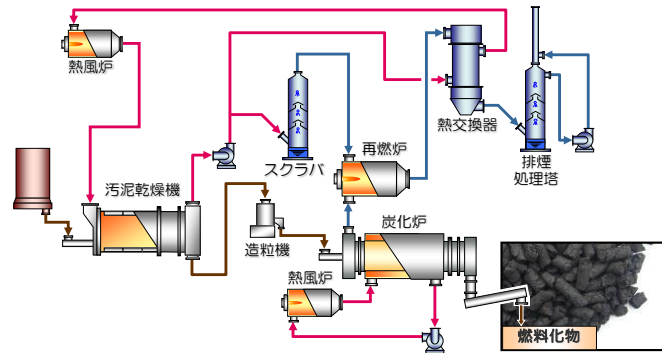


【対策名】 下水汚泥固形燃料化設備の導入

【概要】

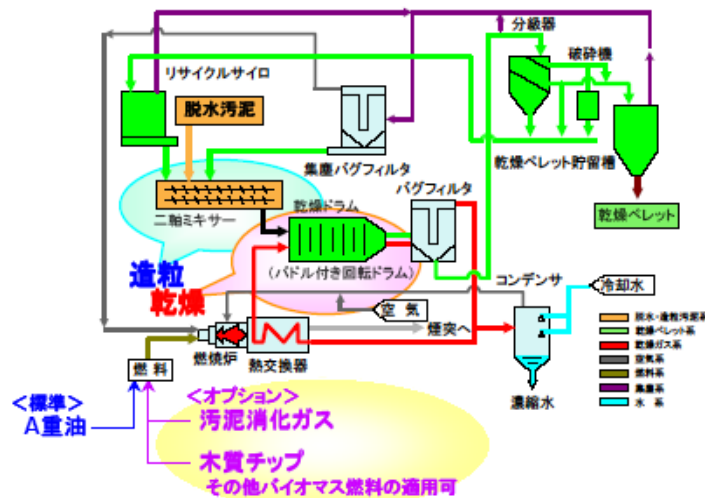
①汚泥炭化技術

無酸素状態で下水汚泥を加熱することにより、汚泥中に含まれる分解ガス（乾溜ガス：生成ガスやタール，水分等）を放出させ、汚泥を熱分解させて燃料化汚泥を製造する。一般に炭化温度によって低温炭化，中温炭化および高温炭化に分類される。下図は低温炭化フローの一例である。



②汚泥乾燥技術

乾燥プロセスによって造粒乾燥，油温減圧式乾燥，改質乾燥および表面固化乾燥に分類される。下図は造粒乾燥フローの一例である。



【導入効果等の例】

導入事例では、低温炭化施設の導入により、N2O 発生量が少ないため、従来の燃焼方式と比較して年間約 2,900t-CO2，火力発電所において年間 3,400t-CO2，合計 6,300t-CO2 の温室効果ガス発生量を削減。

【出典・参考文献】

国土交通省水管理・国土保全局下水道部，下水汚泥エネルギー化技術ガイドライン-改訂版- (2015/3)